

令和2（2020）年度第2回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会
議事概要

1 日 時 令和3（2021）年1月14日（木）10:00～11:00

2 場 所 オンラインによるWeb会議（ニューみくら207・208会議室）

3 出席者 委員：10人（うち代理1人）、オブザーバー4人（うち代理1人）

4 議 事

(1) 全体計画の策定に向けた作業の進捗状況について

資料1に基づき、事務局が令和2（2020）年度～令和5（2023）年度における実証実験の計画（全体計画）の策定に向けた作業の進捗状況や今後の予定について説明し、委員から実験候補箇所の選定方針等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 選定方針について異論はない。【委員】
- ・ 個別の地区ごとに実証実験が行われている事例は他県でもあるが、今回のように県内全域を網羅した計画はなかなかなく、非常に意義がある。リソースの制約がある中で、モデル的に実験候補箇所を10か所程度に絞り込むのは理解できる。ただ、できるだけ多くの箇所で実施するのが望ましいので、選定市町以外でも何らかの形で取組を継続できれば良い。【委員】
- ・ コロナの影響は今後も続くと考えられるため、実現可能性の観点から、コロナの状況についても考慮した上で実験候補箇所を選定すべきではないか。例えば、観光地において、観光客が来ない中で実証実験を行ってももったいない。【委員】
- ・ 1年スパンで考えると、確かにコロナの影響が大きいですが、R5年度までの間には、人の移動もある程度できるようになることが想定される。とりわけ栃木県は観光資源が多いことから、観光地も含め、地域バランスや地域特性を考慮して候補箇所を選定していくことが重要である。【委員】
- ・ コロナの感染拡大が続いているが、実証実験ができることを信じて、バランス良く進めていただきたい。その際、例えば、候補箇所の実証実験ができない場合も想定し、バックアップやオプションとして他の箇所もリストアップしておいた方が良いかもしれない。R5年度以降も自動運転の取組の必要性は続いていくため、今回選定する10か所以外も含めて、幅広に取組を進めていくことが望ましい。【阪田会長】

(2) 令和2（2020）年度実証実験の実施に向けた準備の進捗状況について

資料2に基づき、事務局が令和2（2020）年度における実証実験の実施に向けた準備の進捗状況や今後の予定について説明し、委員から今後作業を進める上での留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 先日、日立市での実証実験中に事故が発生したが、主な原因はヒューマンエラーであった。実証実験の際には、運転手はできるだけ自動運転を続けようとする意識が働くが、安全確保のため、積極的に手動介入するよう、事前に徹底していたので、今回は大事に至らなかった。運転手をはじめ関係者に対し、マニュアルを徹底させるとともに、イレギュラーなことがあった場合には、一度立ち止まって考えることが重要である。また、各種トラブルが発生した際の情報公開内容、連絡体制等の対応マニュアルを事前に決めておくほか、各種トラブルをあらかじめ想定し上で乗車モニターへの同意書を準備すること等も重要である。【委員】
- ・ 茂木町での実証実験の際に、真岡鐵道としては、ノベルティの配布、車内での周知など、会社としてできることは協力したい。【委員】
- ・ 社会実装に向けて、様々な事業者等と連携することが非常に有意義であるため、ぜひ積極的に進めてもらいたい。【阪田会長】
- ・ モニター募集の方法はどうするのか。【委員】
→ 茂木町のケーブルテレビでの放映、道の駅もてぎでのチラシ配布など、様々な媒体で周知していきたい。【事務局】

(3) 県民の理解促進の取組に関する進捗状況について

資料3に基づき、事務局が理解促進の取組に関する進捗状況及び今後の予定について説明し、委員から今後作業を進める上での留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 今後事業内容が固まっていく中で、取組内容がうまく伝わるよう工夫してほしい。例えば、SNSでは、ある程度内容を簡潔に伝え、更に詳しい情報を知りたい人は特設サイトを見てもらうなど、どのような媒体でどのような内容を伝えるかなど、検討してもらいたい。【阪田会長】